

## 膀胱炎ってどんな病気？

膀胱炎は、尿を貯めておく袋である膀胱に細菌が入って炎症が起こる病気です。突然おしっこした後が痛くなったり、尿に血が混じったり、尿の回数が多くなったりします。膀胱には細菌に対する抵抗力がありますが、病気をしたり、疲れなどで抵抗力が弱くなったりすると感染しやすくなります。特に女性は、尿道が男性に比べて短いため、発病しやすいようです。

悪寒と一緒に高熱が出たり、腰痛がある場合は、炎症が腎臓にまで広がり腎盂腎炎になっていることがあるので注意が必要です。

膀胱炎は、尿検査によって簡単に診断できる病気です。

検査の結果、特別異常が見つからないのに膀胱炎と同じような症状をおこすことがあります。これは膀胱神経症といい、心理的な要因が原因です。同じ症状があるからといってすべて同じ膀胱炎では片づけられず、膀胱炎以外の病気の可能性もあるので、必ず専門医に受診し、正しい治療が必要となります。

膀胱炎は多くの人が体験しているので、決して恥ずかしい病気ではありません。1年間に何回も膀胱炎を繰り返したり、あるいは治りの悪い人は、一度専門の先生に診てもらうことをお勧めします。

日頃の生活の中のちょっとした心がけで、膀胱炎は防げるのが解っています。

### 予防対策

1. ストレスや過労、過激なダイエットを避ける、風邪は早く治すなど、細菌に負けない心身の状態を保つ。
2. トイレを我慢しない。
3. 生理用ナプキンやおりものシートは、3時間以内に変える。
4. 下半身を冷やさない。
5. 外陰部を清潔に保ち、排便のときは前から後ろにふく。
6. 過労に注意して、バランスの摂れた食事を心がける。



それでも膀胱炎になってしまったら....

- 1 水分を多めに摂って、尿と一緒に菌を外に出すようにする。
- 2 原因の細菌に効果のある抗生物質を服用する。

治療終了の目安は尿検査で白血球の無いことです。細菌が検出されても白血球が無ければ抗生物質の服用の必要はありません。

# 抗生物質 Q&A

## Q1: 抗生物質ってなあに？

抗生物質とは、細菌などの微生物の成長を阻止する物質のことで、膀胱炎や肺炎、中耳炎やけがが化膿したときなどの細菌感染症に効果があります。



## Q2: 「抗生物質をのむとかぜが早く治る」これって本当？

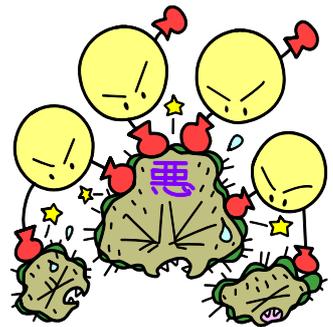
ほとんどのかぜはウイルスが原因ですので、ウイルスに対して効果の無い抗生物質をかぜの時にのんでも効果は期待できません。しかし、かぜと診断されても抗生物質が処方されるのは、急性気管支炎や肺炎、中耳炎などを発症した場合です。

## Q3: 「抗生物質を飲み過ぎると効かなくなる」って本当？

抗生物質が広く使われ(ときには乱用され)、細菌は常に抗生物質にさらされています。たいていの細菌は抗生物質で死滅しますが、薬の効果に抵抗する性質をもつものも出てきます。これを「耐性」といいます。

## Q4: 症状がなくなったので抗生物質をのむのをやめてよい？

抗生物質が処方された場合はきちんと服用しましょう。抗生物質を途中でやめると細菌が完全に死滅しないで、生き残った細菌がまた盛り返してくる事があります。また抗生物質が効かない耐性菌となる可能性があります。また、残った抗生物質を次回類似の症状の時に再使用することもやめましょう。



## Q5: 抗生物質の副作用は？

よくみられる副作用には、下痢があります。整腸剤を併用する事もあります。アレルギー反応により発疹や軽い喘鳴がでることもあります。抗生物質に対するアレルギーがある人は、その薬はもちろん、組成の似た薬も使うことができません。抗生物質を服用して不快な症状が出た場合は、まず受診してその重要性を調べてもらいましょう。